

(5) 個別の援助を必要とする子どもの保育

保育所で子どもたちが示す、気になる様子の中に、家庭の経済的な問題や保護者の健康状態、障害の有無、人間関係のトラブル、周囲からの孤立、夫婦間暴力、さらに虐待や不適切な養育などの実態が見えてくることがあります。

保育所では、子どもや保護者の抱えている問題に目を向け、子どもの生きる権利や成長・発達する権利を守りながら、家族への働きかけを行うようにします。そして、子どもたちが人間としての尊厳を大切にされ、生きる喜びと夢を育みながら、自らの可能性に挑戦していく意欲が持てるように地域の人々や関係機関と連携し、援助をすすめていくことが大切です。

人権保育の視点

- ・ 一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、「大切にされている」と実感できる保育を積み重ねていく。また、保護者にもその必要性を伝えていく。
- ・ 保護者の抱える問題を受けとめ寄り添いながら、保護者自身が問題解決の方法を考え、子育てできるようにする。
- ・ 地域や専門機関などと連携して、子どもや家族を見守り支援していく。

具体的な対応

- ・ 常に子どもの状態や保護者の態度、生活の様子などに気を配り、変化や子どものサインに気づき、対応していく。
- ・ 子どもが「ここでは安全」「認められている」と安全感や安心感の持てる大人との信頼関係を築く。
- ・ 子どもが自らの変化や成長を感じられる言葉かけをして、自信をもてるようにする。
- ・ ありのままの保護者を対等な立場で受けとめ、理解しながら、保護者とともに考える姿勢を大切にする。
- ・ 保育所でできること、できないことを見極めながら、他の関係機関と連携する。

保育の事例

他機関とのネットワーク

子どもや保護者への支援は、ひとりの担任やその保育所だけで担うことはできません。より多くの人や機関が連携し、「子どもや家族を思う気持ち」でつながっていくことが大切です。

地域から連絡があった事例

- ・地域の主任児童委員さんから児童相談所へ、
「夜中に母親の怒鳴る声がある。子どもに怒鳴っている。」
「一日中留守がちで子どもを置いて出かけているようだ。」という連絡が入る。
- ・児童相談所から保育所に問い合わせがあり、担当者が来所する。
園長、担任が保育所での様子を知らせる
- ・今後の対応として、保育所で『母親に声をかけるようにする』『子どもの変化を注意してみていく』という見守りをしていく。

ケース会議を開いた事例

- ・小学校より、母親が姉（小1）に虐待している疑いがあるので児童相談所に連絡したとの報告が入る。
- ・保育所で以前より、育児困難ケースとして保健師と連携して対応してきた家庭なので、保健師に連絡する。
- ・保健師が家庭訪問し、母親の話を聞く。一方、保育所に通所している弟（2歳児・4歳児）の様子を注意してみていく。
- ・小学校・児童相談所・保健師・保育所の4者でケース会議を開き、情報交換と今後の対応について協議する。
- ・小学校・保健師・保育所の間でこまめに連絡を取り合い見守りをしていく。



助けてください

どこにも相談するところがないんです

十分も経たぬのに

母と子 七人の姿が玄関にあった

新緑の公園を背にして

まるで「サウンド・オブ・ミュージック」のワンシーンのように

背に 手に それぞれの旅支度をととのえ

目にいつぱいの不安をたたえ

渴いた表情の一団があった

驚きの言葉を呑み込んで

お子さんはこちら お母さんはこちらと振り分けた

ティッシュペーパーボックスの前に

涙 涙………の話

金もない 食べるものもない 夫は出て行った

病んだ身体でどうすればいいのか判らない

どの子も痩せて渴いた目と唇だった

用意したパンと牛乳を前に

空腹と疲労の中にあつてさえ

「お母さんの分はあるの？」と問う

心やさしい六人の子どもたち

「もちろんよ」と答えると 笑顔が広がった

十二個の不安で渴いた瞳が

ちっぽけで非力なこの私を頼っている

さあどうする この母と子を

さあどうする どうしたらいいのか

頭の中で持てる知識が 壊れそうな洗濯機の

ように軋みながら 混乱の中で回りだす

助けなければ 助けなければ

息詰まる胸の奥が叫び出す



『保育園の窓から』 加藤慶子著 文芸社

『。。。ちゃんが入園してわずか2週間目の朝、著者が目にした光景でした。父親のD（ドメスティック・バイオレンス）と虐待の中で緊迫した状態にあった親子は、保育園でホッとできる時間を得た後、行政のすばやい対応により、母子が安心して過ごせる場所に保護されましたが……。』
。。。ちゃん母子はどうしているかしら』と、今でも気にかかっています。』

著者 談

保育園で子どもの育ちを見つめてきた著者が、子どもたちから大人たちに向けられた「言葉にならない思い」を書き綴った詩集の一篇です。

教材を使って

絵本 『とにかくさけんでにげるんだ』

誘拐・性被害などを防ぐためにわかりやすい
6つのお話で（身を守る知恵）を子どもたち
に伝えます。

ベティ・ボガホールド 作
安藤由紀 訳、河原まり子 絵



変化やサインに気づく

子どもたちや保護者が保育所でみせる姿の中に、何らかのサインが送られていることがあります。保育者にはその変化やサインを見逃さない知識と気づきが求められます。次のような特徴に気づいたら、注意深く見守っていきましょう。

子どもからのサイン

- ・不自然な傷がある
- ・身長や体重の増加が鈍い
- ・衣服や身体がいつも不潔である
- ・おびえた表情や暗い表情がみられる
- ・表情や反応が乏しい、笑顔が少ない
- ・他児に対して乱暴である
- ・がつがつと食べる
- ・おびえた泣き方をする
- ・体に触られることを怖がったり、嫌がったりする
- ・抱かれると異常に離れない
- ・年齢不相応に性的な言葉や行為がみられる
- ・家に帰りたがらない

保護者からのサイン

- ・子どもへの態度や言葉が、乱暴・拒否的・冷淡である
- ・必要以上にしつけが厳しく、よく叱る
- ・子どもを可愛いと思わない、欲しくなかったと公言する
- ・子どものことについて話したがない
- ・子どもを残してよく外出する
- ・理由のはっきりしない欠席が多い
- ・園との話し合いを拒む
- ・地域の中や保護者の中で孤立している
- ・飲酒などによる問題行動がある

記録する

子どもや保護者からのサインに気づいたら、迅速な対応が必要です。問題に対する認識や解決の手がかりをみつけるために、記録を積み重ねていきます。また、記録は保育所内の情報の共有化を図り支援計画を立てるときや、他機関と連携をとっていく上で大切な情報のベースとなります。

* 情報の管理を徹底する

- * 客観的事実を記入する
主観や憶測で記入しない

- * 懸念されること、肯定的側面の両方を列挙する

- * いつ、どこで、誰が、誰に
何を、どうした など詳細に記入する

- * メモ、ビデオ、写真、テープを活用する

記録する時の配慮

- * 小さな変化も見逃さず
その都度記入する

- * おたより帳、会議録などの
コピーを添付してもよい